

沢田内科医院 ニュースレター

第 86 号

弘前市医師会看護専門学校卒業式

3月7日は弘前市医師会看護専門学校の卒業式でした。准看護学科が80人、看護学科が40人の学生が卒業しました。准看護学科は高校を卒業した後に入学し、午前中は医院などでアルバイトをして、午後に講義があります。2年間の講義と実習の後、県の資格試験に合格すると准看護師の免許が与えられます。

沢田内科医院では、斉藤優香さんと木村友美さんが准看護学科を卒業しました。二人とも優秀な成績で卒業しました。結婚式で

はどの花嫁も優秀な成績で学校を卒業するのが恒例ですが、この二人は正真正銘の成績優秀者です。

斉藤さんと木村さんは昨年12月から沢田内科医院で働いています。准看護師の免許はまだありませんので、免許がなくても行える処置や検査の介助などのトレーニングを受けてきました。3月13日に資格試験の発表があり、二人ともめでたく合格でした。これからは、准看護師として注射などができますので、この方面も含めてトレーニングを続け、3ヶ月もすると一人で病棟の夜勤ができるようになります。

斉藤さんと木村さんは、看護学科に推薦合格しています。4月からは、朝から夕方5時まで准看護師として仕事をします。

仕事を終わるとすぐに看護専門学校へ行きます。そして、午後6時から9時まで講義があります。



斉藤さんはすでに大学を卒業しています。木村さんは働きながら看護専門学校へ行き、さらに放送大学で4年間勉強することになっています。すごく厳しい3年間になると予想されますが、何とか頑張ってもらいたいものです。木村さんならきっとできます。

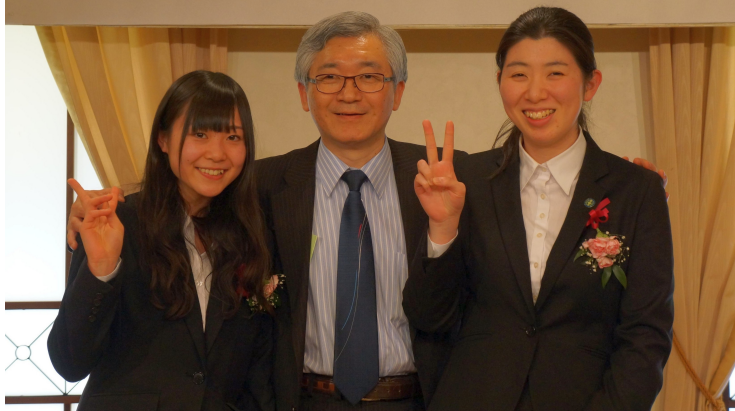
田中亜希子さんは看護学科を卒業しました。これまた成績優秀者に選ばれ、卒業式では代表してお礼の言葉を述べました。元気な田中さんは、欠席は1日だけだったようで、精勤賞にも選ばれました。

田中さんは、高校を卒業して社会人生活を送った後5年前に看護専門学校へ入学しました。仕事をしながら勉強するだけでもたいへんなことですが、2児

の母でもある田中さんには非常に厳しい5年間だったと思います。でも、頑張りました。

4月から田中さんは弘大附属病院で働きます。沢田内科医院で何でもできた田中さんですから、どんなところでもやって行けます。何にでも対応して行けます。沢田内科医院から飛び立ち、ますますの発展を期待しています。

准看護学科55期生卒業



准看護学科を卒業した木村友美さん(左)と斉藤優香さん(右)



看護学科を卒業した田中亜希子さん

西目屋中学校閉校式と卒業式

3月13日、西目屋中学校の閉校式が行われました。西目屋村には中学校がなくなるわけですが、正式には西目屋村が弘前市に教育事務委託を行い、西目屋中学校の教育を東目屋中学校に委託するというものです。そこで、閉校式という暗い名前ではなく、「若鷹・飛翔の集い」という名称になったようです。

午前中に「若鷹・飛翔の集い」が行われ、午後に最後の卒業式が行われました。ご招待を受けましたので、自分の母校の最後の卒業式ですので



「若鷹・飛翔の集い」には多くの報道機関が取材に訪れた。
1年生から3年生まで在校生は全員で28人であった。



西目屋中学校最後の卒業式

出席してきました。

西目屋中学校の最後の卒業生は12人でした。昭和43年3月に卒業した時は73人でした。そして、当時の西目屋村には砂小瀬中学校というもう一つの中学校があったのです。ですから、1学年が100人ほどいたということです。

私には3人の子どもがいます。大学院も計算に入れると、入学式と卒業式は全部で12回以上あったことになります。次男の高校の入学式は日曜日に行われましたので、出席したことがあります。次男が大学を卒業する時は、最後の卒業式でしたので診療を他の人に頼んで出席しました。何と、入学式と卒業式に1回ずつしか出席したことがなかったのです。



卒業生とほぼ同じ数の先生たちと最後の顔合わせ



西目屋中学校で講演

私の母校である西目屋中学校は、この4月から東目屋中学校と一緒にになります。西目屋中学校という名前は消えます。3月13日に最後の卒業式を迎えます。西目屋村に対しては、健診など医療面での協力はもちろんですが、子どもたちの教育に対しても私なりにできる協力をしてきました。そこで、西目屋村の長利允弘教育長から西目屋中学校の先輩として何か子どもたちに話をして欲しいと依頼を受けました。

大人を相手の講演は数限りなく経験がありますが、中学生を相手にして話をするのは初めての経験でした。しかし、これが最後の機会ですので承諾しました。3月20日午後、全校生徒28人を前にして講演でした。

「天下の賢を心の中に」という演題名で、私が高校時代に非常に大きな影響を受けた小田桐孫一校長から教わったことを話

しました。

「天下の賢」、「持って生まれたものを深く探って強く引き出す人」、「他律的学習と自律的学習」の3つのキーワードで、学校生活で大事なこと、進路を決める上で大事なことを話しました。

小田桐孫一校長は、世間では名山詞として通っている陸羯南の五言絶句を引き合いに出し、天下の賢を目指せと言いました。天下の賢とは天下一級のすぐれた人物のことですが、教育者である小田桐校長は「一隅を照らす人」だと解釈しました。つまり、「どんな社会的地位にあらうとも、どんな所得であらうとも、自分



在校生 28 人との記念写真

がいなくては物事が渋滞して困るような人」と教えました。地方にあっても大都会にあっても、一隅を照らす人になって社会貢献しようということです。

私はこれがずっと頭から離れませんでした。今回、このような機会を与えていただき、自分のことを振り返るいい機会となりました。そろそろ私自身も自分の人生を振り返る時期になったのかとも思いました。



看護専門学校のダブルスクール

在学中に放送大学を卒業する看護専門学校のダブルスクール構想が実現しました。4月から運用開始です。ただし、こちらの解釈違いがあり、やはり学士を取得するのは簡単ではないことが分かりました。教養学士のための教科は看護専門学校と同時に履修できるが、看護学士のための教科は看護専門学校を卒業してからでないとできないということです。

本来のダブルスクールは、今年4月に入学する准看護学科の学生を想定していました。この学生たちは看護専門学校を卒業と同時に放送大学を卒業できるからです。ところが、予想していなかった学生が反応してきました。新しく看護学科に入学してくる学生たちです。この人たちは、放送大学卒業に必要な4年間の在学期間を満たすのは看護専門学校を卒業して1年後なのです。将来はこのサポート体制も作る予定です。

千葉市の放送大学本部連携教育課の担当者が打ち合わせのために2回来てくれました。事務的な手続きなどはメールでやり取りしてできたのですが、どうしても微妙な点は直接話をしないと理解が難しいところがありました。



学生への呼び掛けに対して、4月から看護学科に進学する准看護学科2年生が反応してくれました。最初の説明会には何と28人が出席しました。仕事をしながら看護専門学校の勉強をして、その上、放送大学の勉強です。やる気が第一ですので、説明会では、何度も「やる気」、「覚悟」という言葉を繰り返しました。2回目の説明会には11人が出席しました。そして、最終的に4月から7人が放送大学に入学することになりました。また、短期大学を卒業した1人の学生はこのダブルスクールとは違うのですが放送大学に編入することになり、ダブルスクールの学生と同じように授業料免除規定などを適用することになりました。

最初に集まってくれた28人の中には、五所川原市立高等看護学院と黒石厚生看護専門学校を志望している学生が含まれていました。五所川原は専修学校ではありませんので看護学校の単位は大学と互換性がありません。このため志望を弘前市医師会看護専門学校や黒石市の厚生看護専門学校に変えた人がいました。医師会出身の人たちの将来の可能性を少しでも高めてやりたいと思っています。そして、少しでも優秀な高校生が弘前市医師会看護専門学校を選んでくれることを期待しています。